



軽量厚付けペースト漆喰

土壁メンテ中塗り漆喰

土壁改修工法

施工要領書

【改定】2020年12月

※本要領書の内容は、断りなく変更することがありますので、ご了承ください。

Best Walls, Best Life

しっくいと共に

日本プラスター株式会社

1. 使用材料及び調合

[使用材料]

使用材料	荷姿	適用部位	塗厚の範囲	施工面積
土壁メンテ 中塗り漆喰	18kg プラ缶	既存土壁の 欠損部補修、 不陸調整	3～10 mm	約 2.4 m ² /缶 (塗り厚 5 mmの場合)
				約 1.2 m ² /缶 (塗り厚 10 mmの場合)

使用材料	荷姿	成分	用途
ウルトラナノ 浸透プライマー	14kg プラ缶	アクリル系 エマルジョン	浸透型表面強化剤
NP シーラック	18kg 金属ペール缶	エチレン酢酸ビニル系 エマルジョン	吸水調整材

使用材料	荷姿	標準塗り厚	施工面積	用途
(内壁) マルチベース	20 kg 紙袋	約 1.5 mm	約 12 m ² /袋	不陸調整※
(外壁) NP-α	18 kg プラ缶	約 1.0 mm	約 14 m ² /袋	不陸調整※

※土壁メンテ 中塗り漆喰による不陸調整だけでは下地精度が十分でない場合は、その上から
内壁の場合にはマルチベース、外壁の場合にはNP-αにより不陸調整を行って平滑な下地として
ください。

使用材料	荷姿	用途
耐アルカリガラスネット (当社製)	1 ロール 50m 巻 (幅 1m)	補強用ネット※

※補修箇所が大壁仕様の場合は、下地補強およびひび割れ防止のために耐アルカリガラスネット
を伏せ込んでください。

2. 土壁補修の施工方法

施工フローを図1に示す。

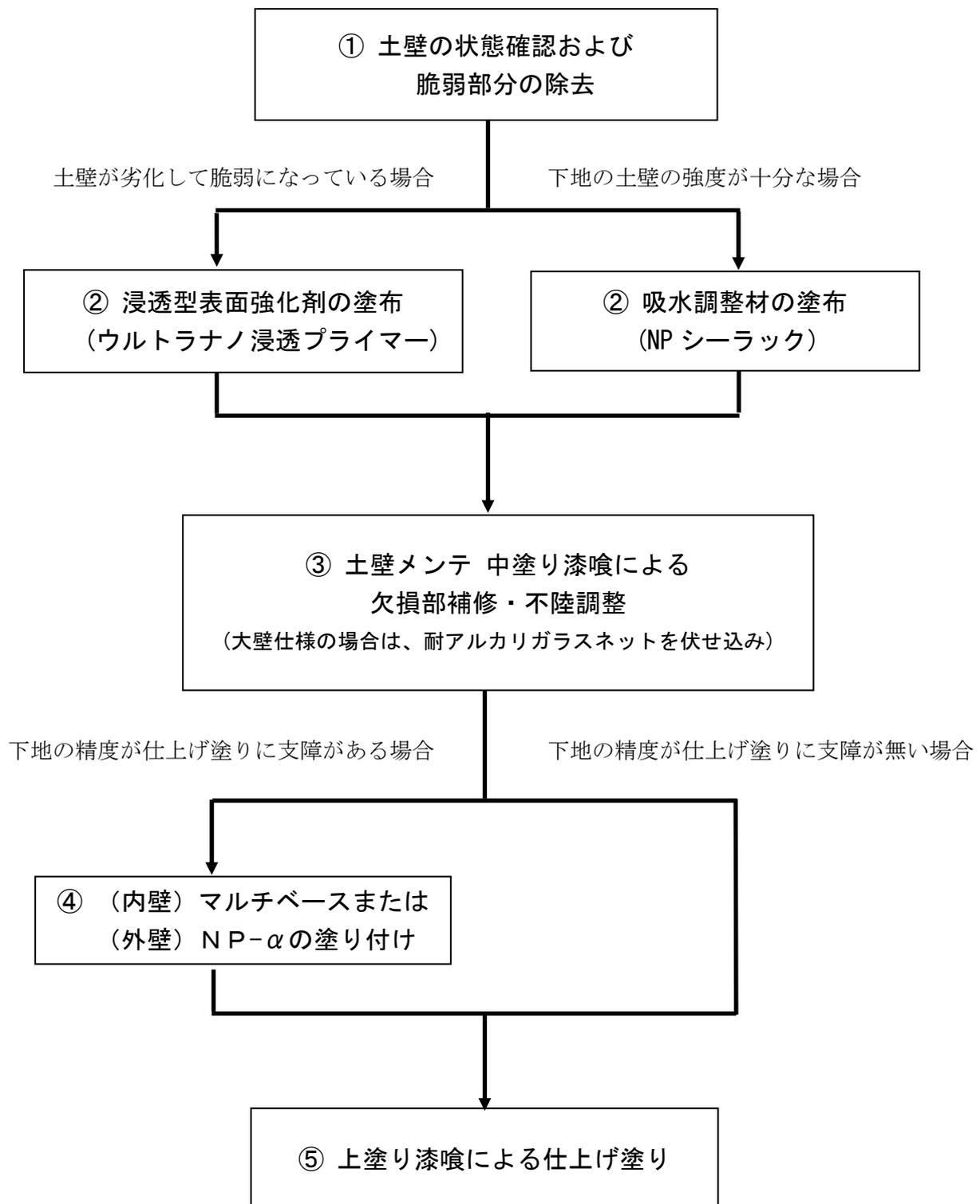


図1 土壁補修の施工方法

2. 1 土壁の状態確認および脆弱部分の除去

まず、補修を行う土壁の劣化(風化)具合を確認します。土壁の劣化が激しく、手で容易に取れるほど脆弱になっている場合は、劣化部分をしっかり除去してください。また手で擦ってパラパラと簡単に落ちるような場合や汚れなどが付着している場合は、ほうき等で表面の脆弱層や汚れをしっかりと落としてください。



写真1 補修前の土壁下地の状況



写真2 竹小舞が露出した劣化部分

➡手で容易に土壁が剥がれる状態。このような部分は予めしっかり除去してください。

2. 2 浸透型表面強化剤の塗布または吸水調整材の塗布

土壁が脆弱な場合は、浸透型表面強化剤(ウルトラナノ浸透プライマー)を塗布して土壁の表層を強化します。施工対象面にウルトラナノ浸透プライマーの原液を刷毛や噴霧器等で2回塗布してください(1回目から2回目までの工程間隔は1時間以内としてください)。塗布したウルトラナノ浸透プライマーが手に付かなければ次工程に進めます。



写真 3、4 浸透型表面強化剤の噴霧器による塗布作業

施工対象面に竹小舞や通し貫が露出してアクの発生が予測される箇所も、脆弱な土壁面と同様にウルトラナノ浸透プライマーの原液を2回塗布してください。



写真 5 竹小舞露出部分への塗布作業
➡アク止めのため2回塗布してください。

写真 6 浸透型表面強化剤の塗布後の状況
➡塗布後はやや濡れ色(艶有り)となります。

土壁の劣化が見られず十分な強度がある場合は、浸透型表面強化剤の塗布は不要です。次工程(土壁メンテ 中塗り漆喰の施工)において、下地からの気泡抑制および接着性向上を目的としてNPシーラックの3倍～5倍希釈液を刷毛等で1回塗布してください。

2. 3 土壁メンテ 中塗り漆喰による欠損部補修・不陸調整

欠損して大きく凹んでいる部分や柱周りに大きな隙間がある場合は、先行して土壁メンテ 中塗り漆喰による付け送りを行ってください。その場合、標準期：中1日以上、冬期：中3日以上の養生期間をおいてから全面塗りに進んでください。



写真7 土壁メンテ 中塗り漆喰による欠損部補修作業



写真8 土壁メンテ 中塗り漆喰による欠損部・隙間補修後の状況
➡全面塗りまでの間隔：標準期：中1日以上、冬期：中3日以上

次に、土壁メンテ 中塗り漆喰による全面塗りを行います。コテで十分に力を入れて下地に擦り付けるように塗りつけ、その後所定の厚さになるよう調整して表面を平滑に整えてください。最大塗り厚は 10 mmを限度とし、それ以上の厚みを塗り付ける場合は、標準期：中 1 日以上、冬期：中 3 日以上の養生期間をおいてから塗り重ねてください。



写真 9 土壁メンテ 中塗り漆喰による全面塗り作業

※土壁メンテ 中塗り漆喰で全面塗りを行う時、土蔵の外壁など補修箇所が大壁仕様の場合は、下地補強およびひび割れ防止を目的として、耐アルカリガラスネット(当社製)を伏せ込んでください。(※ネットは上下左右で 10cm 程度重ねてください)

水引き具合を見計らって、霧吹きで水を軽く噴霧しながら綺麗なコテで表面を押さえると平滑性が上がります(ひび割れの原因になるので、過度な水の噴霧はしないよう注意してください)



写真 10 霧吹き噴霧による表面押さえ作業



写真 11 土壁メンテ 中塗り漆喰 施工前の状況



写真 12 土壁メンテ 中塗り漆喰による全面塗り後の状況

仕上げ材施工までは、標準期：中 1 日以上、冬期：中 3 日以上の養生期間をおいてください。
通風や直射日光による塗付け面の急激な乾燥を防止するため、必要に応じて屋内では開口部の閉鎖、屋外ではシート養生を実施してください。

2. 4 追加の不陸調整(必要な場合)

土壁メンテ中塗り漆喰表面に凹凸があり仕上げに支障が出る場合は、所定の養生期間をとった後に必要に応じて当社下塗り材(内壁:マルチベース、外壁:NP- α)を全面に塗り付けて、平滑な下地を作ってください。

2. 5 上塗り漆喰による仕上げ塗り

施工部位や仕上げパターンに応じて、弊社上塗り漆喰(漆喰くるむシリーズ、カルヌーヴォー、はいしっくいなど)で仕上げ塗りを行ってください(施工方法は各製品の施工要領に従ってください)。



写真 13 土壁メンテ 中塗り漆喰を使用した土壁改修後の状況

(ウルトラナノ浸透プライマーによる下地強化 → 土壁メンテ 中塗り漆喰による不陸調整
→ 漆喰くるむトラッドによる金鏝押さえ仕上げ)

施工上の注意

- 気温が 5℃以下および 35℃以上になる場合は、施工を見合わせてください。
- 本製品は凍結厳禁です。一度凍結したものは使用できません。
- 本製品は既調合品であるため、現場での水を足しての練り戻しは絶対行わないでください。
- 既存の土壁に顕著なひび割れがある場合は、その周辺が浮いている可能性があります。その場合は V カットを行って剥離部分を除去してください。
- 施工道具を洗浄した洗浄水を河川や側溝に破棄しないでください。
- 製品は製造年月日を確認し、製造日から 12 ヶ月以上のもは使用しないでください。
- 材料が余った場合は、表面が空気に触れないように付属のラップフィルムを余った材料の上へのせ、容器を密閉して冷暗所で保管してください。
- 本施工要領書は、一般的な土壁改修をマニュアル化したものであり、全ての状況の土壁改修を保証するものではありません。



日本プラスター株式会社

本社・工場 / 〒327-0311 栃木県佐野市多田町188-2
TEL:0283-62-6511(代) FAX:0283-62-8851

東京営業所 / 〒110-0015 東京都台東区東上野3-38-4
TEL:03-3831-3239(代) FAX:03-3835-2048

西日本営業所 / 〒604-8305 京都府京都市中京区市之町170
TEL:075-406-5031(代) FAX:075-406-5032